

教職員も脱PPAP！

FACULTY MEMBERS CAN ALSO QUIT PPAP!

ウイルス感染・情報漏えい起きる前に
セキュリティ対策をしませんか？



導入・目次

ファイルを送信する際のセキュリティ対策として、
「パスワード付ZIPファイル」を送信し、その後に「パスワード」を送るという
「PPAP」と呼ばれる手法。

多くの組織や団体で、ファイル送信の際のセキュリティ対策として実施されていたこの
「PPAP」ですが、この方法には脆弱性があり、情報漏えいにつながるようになりました。
そのため、企業や官公庁問わず、様々な組織や団体で「PPAP」によるファイル送信を廃止する
動きが活発になっています。それに伴い「脱PPAP」を検討している学校は多いでしょう。

しかし、「脱PPAP」を進めようにも

「どのような解決策があるのか分からない」
「検討はしているが、なかなか動き出せない」

という方も多いかと思います。



当資料では



「PPAP」によって発生するリスクや、具体的な方法

についてご紹介していきます。

目次

- P002 導入・目次
- P003 誤ったセキュリティ対策：「PPAP」でメール送信を
していませんか？
- P004 急拡大する「脱PPAP」の動き
- P005 「脱PPAP」に向けた課題
- P006 「PPAP」の対策方法とは？
- P007 「脱PPAP」で発生する問題点
- P008 HENNGE DLP for Educationで「脱PPAP」を
しませんか？
- P009 HENNGE DLP for Education導入事例
- P010 HENNGE DLP for Educationで「脱PPAP」を
実現しましょう！

誤ったセキュリティ対策：「PPAP」でメール送信をしていませんか？

ZIPファイルを送信する際に使われる「PPAP」という手法。ファイル共有する際のセキュリティ対策方法として浸透している手段ですが、実は誤ったセキュリティ対策方法であり、情報漏えいなどを引き起こすリスクの高い手法になります。では、「PPAP」を使ったメール送信にはどのようなリスクがあるのか解説します。

PPAPによって発生するリスク



盗聴リスク

学生一人ひとりの学修の過程や成果をデータとして蓄積し、「学びの振り返り」「最適な学修支援」「教え方の見直し」などが可能です。



ウィルスの感染

ZIPファイルはウィルス対策ソフトによるチェックができないため、ウィルス感染によるリスクが発生します。



受信者側への負担

受信者側でZIPファイルが解凍できなかったり、セキュリティ規定によってZIPファイルの受信をブロックしている場合、受信者側にも負担が生じます。



誤送信による情報漏洩

送信先や添付ファイルを間違えた場合、取り消しや削除ができないため情報漏えいが起こる可能性があります。

ウィルス感染と情報漏えいの事例

S大学

雑誌社を装ったメールの添付ファイルを教員が開封しコンピュータウィルスに感染。

R大学

2台のPCがコンピュータウィルスに感染。翌日にメールアカウントを停止。

S大学

「gmail.com」と一文字誤ったアドレス(ドッペルゲンガー・ドメイン)宛に10か月間転送を続け、約2100人分の情報を流出

POINT >

このように「PPAP」によるファイルの送信を行うとセキュリティ的なリスクだけではなく、受信者側にも負担を強いるといった問題が発生する可能性があります。

急拡大する「脱PPAP」の動き

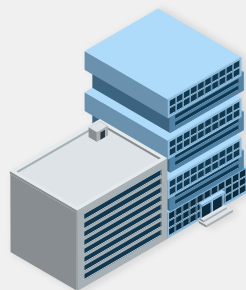
「PPAP」によって様々なリスクや問題が生じるため、近年は「脱PPAP」の動きが急速に拡大しています。

内閣府と内閣官房で
PPAPを廃止



2020年11月24日
平井卓也デジタル改革担当相より、内閣府と内閣官房でPPAPを全面廃止にすることを発表。

各企業でも広がる
脱PPAP



デジタル庁の発表をきっかけに、様々な企業で「脱PPAP」を発表し、「PPAP廃止」が急速に広まる。

文科省でも
PPAPを廃止



Emotet（エモテット）流行に備えて、2022年1月に文科省でも「脱PPAP」を発表。

続々と「脱PPAP」
が実施されている。



2020年

2022年

POINT

このように、企業や官公庁問わず「脱PPAP」の動きは活発になっています。

「脱PPAP」に向けた課題

急速に「脱PPAP」が広がっているため、様々な組織で「PPAP廃止」の検討を進めています。しかし、検討を進めている中でさまざまな課題が発生しています。

代替策が分からない



「脱PPAP」を進めようにも、具体的にどのような対応策が良いのかが分からず、「脱PPAP」が進まない。

教育コストがかかる



「PPAP」廃止に当たって、新たなメールの送信手順を職員に知らせなければならず、学内で新たな手順を浸透させるのにコストがかかる。

優先順位が高くない



現状では特に大きな問題が発生しておらず、早急に「脱PPAP」を進めなければならない理由がないため、後回しになってしまっている。

POINT >

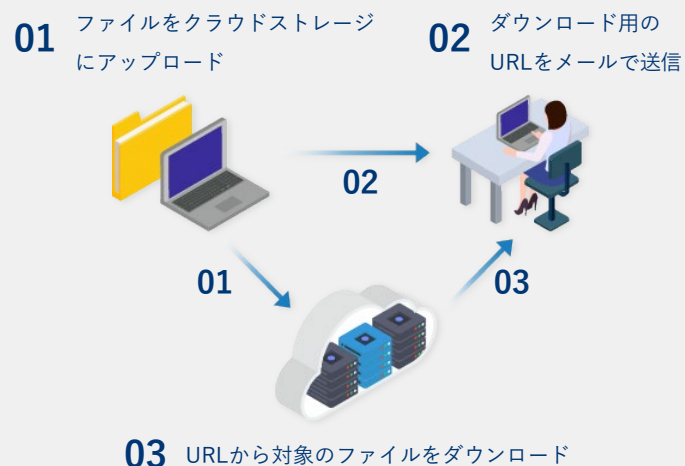
このように「脱PPAP」を進める上で様々な課題が発生しているため、対策が遅れている要因が存在しているケースもあります。

「PPAP」の対策方法とは？

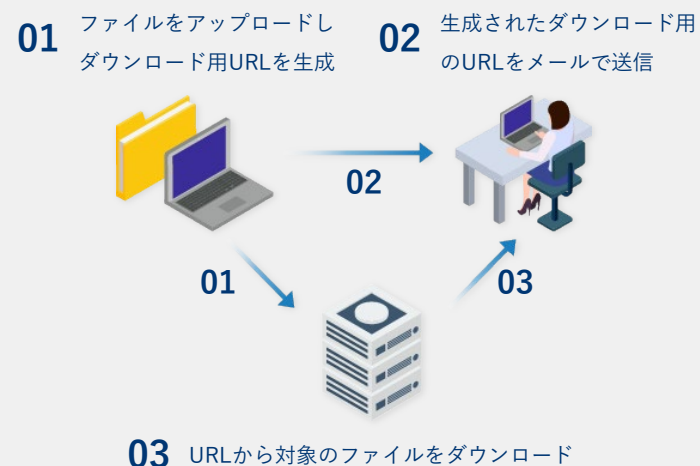
「脱PPAP」に向けて具体的にどのような対応策を打てばよいのか、対策方法について紹介します。

「PPAP」の3つの対策方法

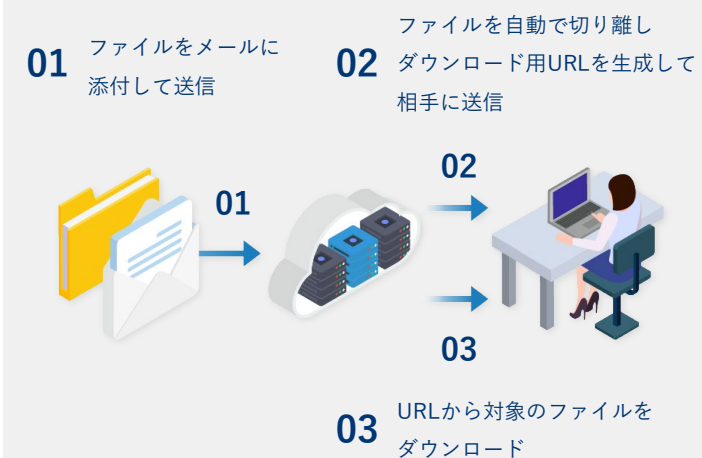
クラウドストレージ サービスを使ったファイル共有



ファイル転送 サービスを使ったファイル共有



添付ファイルの分離配送機能の付いた サービスを使ったファイル共有



POINT > 以上の方法を行うことで、「PPAP」の対策を行うことができます。しかし、これらの方法にはデメリットが存在します。

「脱PPAP」で発生する問題点

「PPAP」対策として、クラウドストレージやファイル転送サービスを使用するといった対策方法には以下のようなデメリットがあります。

「脱PPAP」で発生するデメリット

送信手順が増える 教育コストがかかる



クラウドストレージやファイル転送サービスの場合、送信手順が増えて、職員の業務負担が増える、かつ学内でファイル送信の手順を浸透させるための時間とコストがかかります。

誤送信を未然に 防ぐことができない



誤送信を「未然に」防ぐことができない場合があります。特にドッペルゲンガードメインに送信してしまった場合、誤送信そのものに気が付かないといったリスクもあります。

アクセス権限設定ミス による情報漏えい



クラウドストレージを使った添付ファイルURL化では、アクセス権限の設定ミスによる情報漏えいが起こりえます。

ライセンス費用が高い



サービスによっては「PPAP対策」として導入するにはコストが高くなってしまいうケースがあります。

POINT > このようなデメリットがあるため、なかなか「PPAP」対策が進まない要因にもなっています。

HENNGE DLP for Educationで「脱PPAP」をしませんか？

HENNGE DLP for Educationであれば、「シンプルな手法」かつセキュリティを担保しながら「脱PPAP」が可能になります。

HENNGE DLP for Educationとは

機能

添付ファイル自動URL

メール誤送信対策

大容量ファイル転送



「教育機関向け」に
Microsoft 365やGoogle Workspaceなどの
クラウドメールに対して
様々なセキュリティ機能を提供

シンプルな手法で「脱PPAP」が可能 + 柔軟なフィルター設定で誤送信を防ぎます

01 ファイルをメールに添して送信
「一時保留」や「上長承認」の機能によって
誤送信を防ぎます。



01

02 ファイルを自動で切り離しダウンロード用URLを生成
して相手に送信。相手のセキュリティポリシーに合わ
せて、添付ファイルの送信形式を変更できます。



02

03



03 URLから対象のファイルをダウンロード

フィルター設定

上長承認

一時保留

BCC追加

削除

チームメール

ファイル送信方法

自動URL化

自動ZIP暗号化

メールにファイルを添付して送信するだけで、自動で「PPAP」対策を行ってくれます。
また、一時保留や上長承認などの誤送信フィルターを設定などが可能。
それによりドッペルゲンガー・ドメインへの送信といった、誤送信を防ぎます。
また、相手のセキュリティポリシーに合わせて、送信形式を変更可能です。

HENNGE DLP for Educationは、HENNGE株式会社の教育機関向けクラウドセキュリティサービスです。

HENNGE DLP for Education導入事例

ここでは、HENNGE DLP for Educationの導入事例を2つご紹介いたします。

渋谷区様※

課題

「脱PPAP」を進めようにも、具体的にどのような対応策が良いのかが分からず、「脱PPAP」が進まない。

※HENNGE株式会社様にて導入支援
※導入サービスは「HENNGE One E-Mail Security Edition」(HENNGE DLP for Educationは文教向けライセンス)

導入後

「添付ファイルURL自動変換」機能により、職員の利便性を低下させずに「脱PPAP」を実現。
取り消し機能や一定期間で添付ファイルの参照をオフにする機能により「誤送信対策」も可能に。

関東近郊私立大学様

様々なリテラシーに対応した、ユーザー負荷の少ない方法で脱PPAPを実装したい。展開をフェーズごとに分けて、情シスへの負担を抑えて導入をすすめたい。メールでの外部とのやり取りがあるため、誤送信対策機能が欲しい。

「HENNGE DLP for Education」によって「脱PPAP」と「誤送信対策」を実現。
設定代行や導入後の運用支援といった手厚いサポートによりスムーズな導入が可能に。

POINT >

「HENNGE DLP for Education」は「脱PPAP」だけではなく「誤送信対策」等様々な機能を実現可能です。
また、導入時だけではなく導入後もしっかりと支援をする、手厚いサポートをご用意しております。

HENNGE DLP for Educationで「脱PPAP」を実現しましょう！

導入前・導入後も手厚くサポート
文教向けライセンスでコストを抑えて導入が可能です。



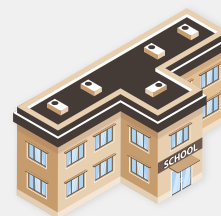
導入伴走支援



設定代行



ヘルプサイト
コミュニティサイト



文教向け
ライセンス

導入前にはテクニカルコンサルによる導入サポートを支援。
導入後はサポートメンバーが運用をサポート。
ヘルプサイト・コミュニティサイトも充実しているため導入後も安心です。
また、文教向けライセンスもあるためコストを抑えて導入をすることが可能です。

急速に広まっている「脱PPAP」。

それに伴い学内でも「PPAP廃止」を検討しているがなかなか進んでいないという現状。

「HENNGE DLP for Education」なら、シンプル手法で「脱PPAP」を実現可能です。

サポートも充実しており、導入前だけではなく導入後もしっかりとサポートをさせていただきます。

もし「PPAP廃止」を検討しているなら

「HENNGE DLP for Education」で「脱PPAP」を実現しませんか？

お問い合わせはこちら



パナソニック デジタル株式会社

ご連絡先

大阪本社

TEL/06-6906-2801 住所/〒530-0053 大阪市北区末広町2番40号

東京本社

TEL/03-5148-5634 住所/〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目21番1号

Panasonic